

まちセンター

令和4年3月1日発行

第1号

発行：つくばみらい市役所地域推進課 市民活動まちづくりセンター
住所：〒300-2358 茨城県つくばみらい市陽光台3丁目9-1
開所日：火曜日～日曜日 9:00～19:00
Tel:0297(44)8833 E-mail:machisen01@city.tsukubamirai.lg.jp

IT普及電腦会



NPO法人 地球の緑を育てる会



こども食堂



とつながる

地域

がつながる

CONTENTS

- ・市民協働のまちづくりのヒントを探る
- ・利用者の声



市民協働のまちづくりの

ヒントを探る

令和3年8月24日に開所を迎えた市民活動まちづくりセンターにて、市民協働シンポジウムを開催しました。パネルディスカッションでは、小田川市長もパネリストとして参加し、ボランティアとして、市民活動を実践する方々などから活発な意見が飛び交いました。

北島 本日は、長年ボランティアや、まちづくりに貢献されている方々をお招きし、ディスカッションを進めてまいります。まず初めに、つくばみらい市でボランティア活動を行っている大内さんに、ボランティア活動を始めたきっかけや、活動していく中で感じた苦労、課題を教えてください。また、行政に対して要望があれば、併せてお話し頂きますでしょうか。



大内 仁子 さん

ボランティアは、する側の居場所にもなる

大内 ボランティア参加のきっかけは、18年前に引越してきた時、ポストに入っていた市の広報紙でした。ボランティアに参加し、その活動を通じて、たくさん学びがあり、たくさん縁が生まれました。人との繋がり、連携、他の地域活動など、家庭や職場以外の居場所が増えたことはそれぞれに良い影響をもたらし、また辛いときには救われてもきました。行政への要望ですが、ボランティア活動を続けていく中で、必要な備品を保管する場所がないと感じています。行政が管理している施設を、有効活用できないでしょうか。
北島 ボランティアは、参加する側の生きがいや居場所づくりにも重要な役割を果たしています。団体の活動拠点については、私も課題と感じています。



小田川 浩 市長

市長 以前から、ボランティア団体の方々から、活動拠点がなくてご要望を頂いておりました。団体の方々に納得して頂けるようなスペースを確保しなければいけないと思っております。

北島 石村さんはNPO法人の理事長をおつとめですが、活動で感じた問題や課題はどのようなものがありますか。

市民意見が取り入れられる時代

石村 20年前より、ドングリから苗木を育てる圃場を市内の狸穴に設け、活動を続けています。課題は、自分たちの活動を皆様になかなか知ってもらえないことです。今回のようなシンポジウムなどに市民の皆さんが積極的に参加して頂き、つながることができればと思っています。また、課題とは別になりますが、市の方々が、市民に対して一生



石村 章子 さん

懸命努力されているということを感じます。私たちが生きてきた時代は、行政に頼るといってもいいのですが、これからは私たち市民も意見を出し、そ

パネルディスカッション 出演者 (敬称略)

コーディネーター

北島 重司 (株式会社 茨城放送 取締役会長)

パネリスト

石村 章子 (NPO法人 地球の緑を育てる会 理事長)

大内 仁子 (市ボランティア連絡協議会 副会長)

山本 一郎 (高砂熱学工業株式会社 研究開発本部 副本部長)

山本 幸子 (筑波大学 情報システム系准教授)

小田川 浩 (つくばみらい市長)



の意見が取り入れられていく時代になったのだなと感じています。

北島 緑は人間が手入れをしないと上手く育たないということもあり、身近で緑が育てられているのは非常に貴重なことだと思います。

市長 地球環境というのは、今大きな問題になっている事柄の1つです。

防風林がなくなったお話を石村さんとしたのですが、だんだん田舎の風景に木が少なくなってきたというところがあります。また、森をなくして太陽光発電を設置している現状を見ると、行政としても歯がゆいため、勉強させて頂き、環境問題に取り組んでいければと考えています。

北島 続いて、つくばみらい市と包括連携協定を締結している高砂熱学工業株式会社、山本さんに協定を結んだ経緯や現状についてお伺いします。



山本 一郎 さん

企業参加まちづくりの重要性

山本(一) つくばみらい市とは2020年に包括連携協定を締結しました。

企業として今までは、対企業が多かったのですが、これからは、対個人も含めて、いわゆるSDGs、持続可能な開発を取り入れ、地域の皆さんと一緒に活動していかなければと感じています。

私たちは、「防災・エネルギー・コミュニティ・教育」の4つをテーマに、連携の中でいろいろな活動に取り組んでいます。コミュニティの分野では、5月と10月に地域の方が野菜や花、工芸品などを販売する「たかさごマルシェ」というイベントを開催し、延べ800人近くの方がご参加くださいました。

北島 企業がまちづくりに参加するのは非常に大事なことになるかと思いますが、今後も、市として企業との協定を進めていく予定ですか。

市長 昨今、行政が結ぶ協定は、企業、もしくは団体と結ぶものがほとんどです。高砂熱学さんとの協定は、4つのテーマにおいて、一緒に取り組んでいくといったものになっています。

非常に熱心に行政にも関心を持って頂いておりますので、これは必ず市民の皆さんにも本当にプラスになる、メリットのある協定だと思っています。



山本 幸子 さん

北島 山本幸子先生は、空き家や古民家再生事業に取り組んでおられますが、古民家再生とまちづくりとの接点は、どのようなところにあるのでしょうか。

古民家を地域の居場所へ

山本(幸) 古民家再生とまちづくりは、かなり密な関係にあると思っています。一言に古民家といっても、その土地の文化や生活というものを長い年月継承してきたものなので、地域との結びつきが非常に強いと感じています。

古民家を活用していく上では、必ず持ち主が、何代もその土地で代々継承されてきた方ですので、その方のご協力ご理解なく古民家の活用は進みません。また、古民家は必ず集落の中にありますので、それを活用していく上では、集落の方たちの理解も大事であること

から、古民家の活用は、まちづくりと近い関係にあると考えています。

北島 つくばみらい市を例にとった古民家再生はありますか。

山本(幸) 古民家を住宅以外の用途に転用していくことが、今、増えてきています。古民家を宿に転用し、例えばつく

ばみらい市に来て、その暮らしを体験することで、ここを好きになって何回も来たい、移住してみたいと思って頂けるきっかけを作る場所とするような取組が全国で進められています。また、

古民家を地域の居場所として活用することで、高齢者の方にとっても、人とのつながりが生まれ、地域活動につながっていくのではないかと考えています。

北島 行政にとってヒントになることが多かったと思うのですが、市長はいかがお考えでしょうか。

市長 現在、高齢者の居場所づくりは



北島 重司 さん

公民館などで実施していますが、毎日実施できていない点が課題だと考えています。拠点がなくては毎日実施できません。山本先生にご協力頂き、相談させて頂くことで、空き家活用にもつながるのではないかと考えました。

北島 行政は、他の行政で成功したものを真似しても、大体うまくいかないです。自分のところで何ができるかを考えないと進まないですが、今日は、皆さんから多くのヒントになる提案がされたと思います。

市長 これからの公共は、行政だけを指すのではなく、行政・企業・地域すべてを含めたものだと思います。行政も、企業も、地域も全部が一体となって進めていくことが大切です。どんな事業にしても、「人」が重要になります。「人」を大切に、「人」のめぐり逢いに感謝するというような気持ちで、これからも取り組んでいきたいです。

北島 皆さんありがとうございました。これを市民の皆様のアートラインとして、このみらい平市民センターを活発にご活用して頂き、まちづくりに少しでも参加する契機にして頂ければと思います。

当日の全会議録は、こちらからご覧ください。



まちセンボイス

センター利用者の声

耳の不自由な方をサポートするボランティアグループ

「つくばみらい 要約筆記の会」 米澤さん

市民活動まちづくりセンターは、Wi-Fiによる安定したインターネット環境が整っていて、団体の活動を非常にスムーズに進めていくことができます。また、プロジェクターやスクリーンの貸し出しも行っていますので、映像を使う私たちのような団体としては大変助かっています。



つくばみらい 要約筆記の会

市民活動まちづくりセンターに登録をしませんか？

市民活動まちづくりセンターの会議室や作業室の利用には、**団体登録**が必要です！

登録書類などはセンター受付でご用意しています。

また、センターホームページからもダウンロード可能です。

ホームページ：<https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/page/page003452.html>

